

App Bridge Release Note

2017年03月14日付でリリースされる App Bridge Monitor のバージョンアップ内容を以下に示します。

1. 電話通知機能の新設

自動発信による電話通知機能が新設されます。通知先には複数の電話番号が登録でき、通話が確認できるまで順次発信します。基本料は必要なく、利用量に応じた従量課金でご利用いただけます。

2. 通知振分機能の新設

以下の条件を組合せ、電子メール通知、電話通知の通知先を変更することができます。例えば、特定エラーの通知先を変更する、営業日の定時や休日の通知先を変更する、などの設定が可能です。複数の通知先に通知することも可能です。

- ノードコード、通知メッセージコード
- 件名、本文の内容（正規表現による判定）
- 日付（月日）、曜日、休日、時刻（休日の利用にはカレンダーの登録が必要です）

3. 通知抑止の拡張

通知振分と同じ条件で、通知抑止を実施することができます。例えば、休日の深夜時間帯には通知させないなどの設定が可能です。

4. カスタム機能の新設

Agent をインストールした被監視サーバで、利用者独自のカスタム監視を実装いただけます。ご利用にはプログラミングが必要です。Windows 環境では、プログラミングレスのパフォーマンスカウンタ監視が提供されます。

5. REST API の提供

REST API による監視状況の参照を提供します。REST API を使用することで、他システムとの連携が可能となります。また、REST API を容易に利用いただくため、CLI も合わせて提供されます。

6. 小規模な機能拡張及び不具合対応

6.1 監視センタ

#	対象	内容
1	メッセージ記録の拡張	障害回復メッセージ、警告発生メッセージ、警告回復メッセージを記録するよう変更しました
2	通知メッセージの拡張	以下の通知メッセージを変更しました。メッセージ記録の拡張に伴い、下記監視の通知メッセージを変更しました。詳細は通知メッセージガイドを参照下さい <ul style="list-style-type: none"> ● Ping 監視 ● Http 監視 ● プロセス監視
3	DB 応答監視統計情報	応答なしが含まれる期間の最小値がゼロとなる問題に対応しました
4	通知メッセージ抑止機能の強化	コマンドによる通知メッセージが抑止対象となるよう対応しました
5	制御文字対応	監視データにバックスペースなどの制御文字が含まれていた場合、Web 画面の表示に失敗する問題に対応しました
6	API 監視	Microsoft Azure Virtual Machines の監視で、1つのクラウドサービスに複数の仮想マシンが存在する場合、正しくステータスを取得しない場合がある問題に対応しました
7	正規表現	正規表現で、改行をタブ化する機能を追加しました

6.2 応答監視

#	対象	内容
1	HTTP 監視拡張	TLS1.1、TLS1.2 のみをサポートする Web サイトが監視できない問題に対応しました
2	通信時間閾値の新設	HTTP 監視、Ping 監視で通信時間の閾値監視が可能となりました

6.3 Web サイト

主な変更点を以下に示します。

(1) 全般

#	対象	内容
1	請求関連	全面改修しました
2	カレンダー管理	新設しました
3	障害表示	Critical→Error に統一しました
4	アイコン	HTTP のアイコンを変更しました

(2) 監視設定

#	対象	内容
1	機能新設	カスタム監視エラー条件
		通知振分条件
		電子メール通知先
		電話通知先
2	エラー判定条件	オーナレベル、ノードレベルに分かれていたエラー判定条件、除外条件を統合しました
3	エンドポイント登録	インターネット向けエンドポイント登録で、クラス D、クラス E のアドレスを入力しないよう変更しました
		HTTP 応答監視で、ユーザ情報付の URL が登録できないよう変更しました

(3) 監視照会

#	対象	内容
1	通知メッセージ関連	全面改修しました。
2	統計情報関連	全面改修しました

(4) その他

#	対象	内容
1	ノード管理	トライアル期間中のノードの変更、解約が可能になりました
		解約ノードのノード CD 変更が可能となりました
2	AmazonEC2 認証情報管理	IE11 の不具合により最大桁数分入力できない問題に対応しました
3	ユーザ管理	電話番号登録機能を追加しました
		メッセージ通知電子メール受信を追加しました

6.4 連携サービス

#	対象	内容
1	通知連携ファイル 連携データ詳細	連携項目に以下の項目を追加しました。詳細は別紙の通知連携サービスガイドを参照下さい <ul style="list-style-type: none"> ● メッセージの種類 ● 発生理由 ● 電子メール送信有無 ● 電話発信の有無 ● 電話発信履歴 ID

6.5 App Bridge Monitor Windows Agent

#	対象	内容
1	パフォーマンスモニタ監視	パフォーマンスモニタ監視機能を追加しました
2	テキストログ監視	処理方式を変更し、メモリ使用効率を改善しました 同一フォルダファイルを監視対象とできない問題に対応しました
3	プロセス監視	引数指定によるプロセス選別を可能としました
4	Microsoft Cloud Service の属性 情報取得機能強化	Agent 起動時の Azure 属性情報の取得動作を強化しました <ul style="list-style-type: none"> ● 取得に失敗した際、直前に Azure 属性情報の取得に成功していれば当該値を仮定するよう変更しました ● リトライ回数を 12→60 に変更しました
5	Proxy サーバ設定	Use Proxy Server の初期値を false に変更しました Smart Install でプロキシ情報を変更した際、プロセスを再起動しないとプロキシ情報が反映されない問題に対応しました
6	エンドポイント取得	エンドポイント取得で障害が発生した際のエラーメッセージ通知を抑止しました
7	HTTP 監視	TLS1.1、TLS1.2 のみをサポートする Web サイトが監視できない問題に対応しました
8	設定情報のインポート変更	設定情報のインポート処理で、監視項目の Enable、Disable が反映されない問題に対応しました
9	Service Control	CPU 監視、メモリ監視を無効化できない問題に対応しました サービス監視を無効化できない仕様に変更しました
10	データ送信	アップグレード前のエージェントによって作成された未送信の監視情報が残っている場合、エージェントが正しく動作しない問題に対応しました
11	ファイル削除機能	保存期間に 10,000,000 時間以上を設定すると例外が発生する問題に対応しました
12		例外発生時に例外と関係しない削除対象フォルダの処理がスキップされる問題に対応しました
13		不要ファイル削除でファイル競合等が発生した際、不要なエラー通知が発生する問題に対応しました
14	Azure SQL Databases 監視	DB 最大容量に 9,223,372,036,854,775,300 バイト以上の値を設定した場合、Auto Sizing で監視される問題に対応しました

6.6 App Bridge Monitor Linux Agent

#	対象	内容
1	CPU ビジー監視 ディスクビジー監視 ディスクスペース監視 物理メモリ監視 仮想メモリ監視	監視情報の取得間隔、及び監視データの送信間隔を Windows Agent と同様に短縮し、監視情報、及び統計情報の精度を向上しました
2	CPU ビジー監視	全 CPU の平均を監視する機能を追加しました 特定の CPU のみを監視する機能を追加しました
3	物理メモリ監視	物理メモリ空き容量の算出方法を変更し、選択可能としました。 既定の物理メモリ空き容量算出方法も変更されます
4	ディスクビジー監視	特定のディスクデバイスのみを監視する機能を追加しました
5	プロセス監視	引数指定によるプロセス選別を可能としました
6	テキストログ監視	設定済みのテキストログ監視情報を修正できるようにしました テキストログ監視にて、ログ情報の文字列が長い場合にサロゲートペア文字を意識せずカットされる問題に対応しました テキストログ監視にて、ログ情報の文字列が長い場合にカットする文字列長を Windows Agent と仕様を合わせ、UTF-8 換算 8000 バイトとしました テキストログの読み込みに失敗した場合に、サービスを停止せず、通知するようにしました 空行（改行コードのみの行）がエラーとなる問題に対応しました
7	エクスポート・インポート	監視設定のエクスポート・インポート機能を追加しました
8	Cloud Setting 機能	Cloud Setting 機能（マルチインスタンスノードにおける監視設定の同期）を追加しました
9	起動停止通知機能	エージェントの起動停止を通知する機能を追加しました
10	ファイル削除処理	大量のファイル削除が発生した際、削除処理の連続実行により、被監視サーバのリソースを過度に消費する問題に対応しました
11	環境設定	エージェント環境を再設定し、別オーナーのノードに変更した際、変更前の設定で実施した監視情報が削除されるようにしました インポート後、設定ツールを終了せずに監視設定を照会した場合、インポートした設定情報が表示されない問題に対応しました
12	アンインストール	アンインストール時に未送信の監視情報が破棄される問題に対応しました アンインストール時の環境設定情報、ログ情報の削除機能を無効としました
14	メッセージ送信コマンド	指定したメッセージの文字列が長い場合、メッセージをカットして送信するよう修正しました
15	ファイル削除	保持期間に 597 日以上を設定した場合、保持期間に含まれるファイルも削除されてしまう問題に対応しました 例外発生時に例外と関係しない削除対象フォルダの処理がスキップされる問題に対応しました

7. お問い合わせ先

本リリースに関しては以下のメールアドレスにお問い合わせ下さい。

info@app-bridge.com

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corporation の登録商標です。Azure は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。Amazon EC2 は米国 Amazon Technologies Inc. の登録商標です App Bridge は株式会社日立システムズの登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

以上